

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	にこふる		
○保護者評価実施期間	令和8年1月15日		～ 令和8年1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○従業者評価実施期間	令和8年1月15日		～ 令和8年1月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月2日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児・活動に関して 子ども達がにこふるのことが好きである。 子どもの意見に幅広く選択肢を与え、個別に活動出来る。 子ども達の意見を積極的に取り入れている。	好きなことや興味の有無、特徴を把握しており、ニーズに合わせて対応している。	今後も様々な活動を提供していく。子ども達の経験の豊かさに繋げていく。 活動に参加しやすいよう選択肢を与えたり、配慮を行ったりする。
2	事業所に関して 開かれた事業所である。 新しい事業所である為、色々な「色」になれる。	お迎えに来た保護者は事業所内に入り、子どもの遊んでいる様子を見ることが出来る。 地域に住む児童も園庭を利用出来るようにしている。(園庭開放) 地域交流のイベントある。 「してみたいこと」を積極的に取り入れ、冒険・成功・失敗を繰り返し事業所を作り上げていっている。	継続して地域交流や園庭解放を行っていく。 SNSの活用や事業所の周知活動も行っていく。 「してみたいこと」を積極的に取り入れていく。
3	職員に関して 人生経験が役立っている。職員のそれぞれの強みを発揮できている。	スタッフの様々な人生経験が生かされるよう、活動に反映させている。(調理や野菜の栽培、制作活動など) 職員の立ち位置やアイコンタクト、コミュニケーション。	とにかくコミュニケーションをとり、職員それぞれの強みを活かせるような事業所にしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	今後、支援校に登校する児童が出てきたら、送迎や体制に課題が出てくるかもしれない。	職員の確保、体制作り。	支援校へ進学する児童が出てきた場合は、早くから体制の確保を行っていく。
2	職員のスキルアップ。	職員によって経験年数やスキルが違うので対応の差がある時がある。	先輩職員からの指導やアドバイス。 研修の実施。 意欲的になれる職場の雰囲気づくり。 他事業所の見学。 普段からの職員間でのコミュニケーション連携。
3	環境面の調整。	環境の構造化や環境設備。	分かりやすい視覚化。 物の配置。 パーテーションの使用。